

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の皆が見えるところに事業所理念を貼りだし、家庭的でやすらぎのある生活など4つの項目を実践している。	玄関ホールには法人の理念、4項目からなるホーム理念、サービス提供方針等が掲げられており、来訪者にわかるようになっている。職員は月1回の定例会で法人理念やホーム理念を確認し合い、理念や方針の実践に取り組んでいる。家族には利用契約時に法人やホームの理念を基にした活動内容などを説明し理解をいただいている。法人として毎年度1~2名の異動があり、また、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と兼務している職員もいるが理念を共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加している。地域との交流も、再開しはじめ、地域行事等に参加しています。	自治会費を納め、回覧により地域の行事などの情報は得ている。5月の新型コロナ5類移行に伴い、この数年自粛していた地域の方との交流、中学の職場体験の受け入れ等も再開され、来年1月には初任者研修の実習生の受け入れが予定されている。そうした中、利用者は町の主催で行われる「認知症カフェ」や小規模多機能型居宅介護事業所で開かれた「バーベキュー大会」に参加している。ボランティアの来訪についても再開に向けて前向きに検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの参加、施設周辺の散歩等を通して、認知症の理解を深める機会を継続して続けている。学生等の実習を受け入れていきたいと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、サービス状況を説明したり、委員の皆さまに意見や協力をいただいている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所との合同の会議が対面で再開され、2ヶ月に1回実施されている。グループホームの家族代表、小規模多機能型居宅介護利用者家族代表、区長、民生委員、地域代表住民、医療関係者、他の介護事業所関係者、役場保健福祉課職員、両事業所の関係者などが参加し、利用状況やホームの活動状況、防災対策などの報告を行い、意見・助言などを頂き、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場担当係の係長職に運営推進会議へ参加して頂き、事業の説明、現状を伝え協力関係を築くように努めている。利用者選考委員会には役場担当課の課長職に委員をお願いし、実情を伝えるよう取り組んでいる。	役場の保健福祉課には日頃から電話などで相談している。また、地域包括支援センター主催で2ヶ月に1回開かれる町の連絡会にも出席し情報交換を行っている。介護認定の更新時は家族から依頼があれば代行申請し、調査時にも職員が情報提供を行っている。更に、ホームの利用者の欠員に際し選考会が行われ、民生委員や医療関係者、地域包括支援センター職員などが参加し新しい利用者を選んでいる。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない施設運営に取り組んでいるが、やむを得ない場合のみ、ご家族や主治医と相談し、適切な対応を検討する。 現状、施設玄関口は施錠している。	年1回、法人として拘束・虐待ゼロに向けた必須研修が開かれ、職員が出席している。ホームの玄関は安全上、施錠しているが、併設の小規模多機能型居宅介護事業所から入居に到った利用者もあり、小規模多機能型居宅介護事業所とは廊下でつながっていることから自由に行き来している。共有スペースの中央には事務スペースがあり、居室も見渡せることから職員は所在確認を小まめに行っている。家族の了承を得て、安全のため足元センサーを利用している方がいるが、解除に向けて定期的に検討を行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加したり、職員同士で利用者に対する言動について注意し接するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者1名が成年後見制度を利用し、関係者と相談し、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設見学を勧めている。その上で各種相談に努めている。契約の際には時間的余裕を持って丁寧に説明できるようにしている。契約内容を改定する場合は、説明書と同意書もらっている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的開催し、ご家族の要望を伺う機会を設けている。	殆どの利用者が自分の要望を伝えることができ、職員は日頃から希望を聞いている。心身の状態により表出が難しい時があり、選んでいただく場面づくりなどにより推し測っている。つぶやきなどは「私の気持ちシート」に書かれており、職員間で共有し支援に活かしている。現在、家族との面会については予約を頂き、居室にて15分前後、3～4人を限度に行っている。コロナ禍で休止していた家族会も6月から再開され、4ヶ月に1回、実施している。11月には焼き芋大会を兼ねて行い、日頃の報告などをし家族とのコミュニケーションを図ったという。そうした中、2ヶ月に1回併設の小規模多機能型居宅介護と合同で「悠々だより」を発行しており、また、2ヶ月に1回、「悠々だより」とダブらないように、各担当職員からのコメントを添えた写真入り「くにちゃん家通信」を作成し家族の元へ送っている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を開き、利用者の情報共有や細かな変化に気づけるよう努めている。上長へは、報告書や上長会議を通して意見を伝えている。	毎月、職員の定例会を開き、カンファレンス、外部研修の報告など業務全般の意見交換を行っている。小規模多機能型居宅介護事業所との兼務の職員がおり、また、利用者も自由に行き来していることから大切な情報交換の場となっている。法人としての目標管理制度があり、職員は年1回目標を立て自己評価を行い、係長や局長との面談が行われ相談や希望を伝えることができる。ストレスチェックも行われている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は評価基準に基づき、職員を評価している。代表者は職員からの相談を随時受付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協全体の勉強会や関係機関による勉強会を開催し、全員に参加してもらった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	互助会が企画する交流会等、同業者が交流する機会を設けている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた自宅を離れ、他人と共同生活を始めることで生じる不安・混乱を受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で本人、家族、訪問診療の事業所とケア会議を開催し、目標や情報を共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用していたサービス事業所と連携し、同等のサービスの継続の是非について考えた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さりげない労いやお誘いなど気遣いの言葉を有難く受け止め、出来る限り対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の開催や、衣替えのときには衣類や布団交換をお願いし、やっていただいている。利用者家族の方で美容師をしている方がいて、定期的にカットしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人(団体)から定期的に届くお便りをファイルに綴り、いつでも閲覧できるようにし、よりどころを大切にしている。	新型コロナの5類移行を受けて、知人・友人との面会についても家族と同様となっている。併設の小規模多機能居宅介護事業所で行われる注連縄や繭玉づくりなどに参加する予定がある。コロナ禍でも全国の書道大会に作品を出品する利用者もおり、馴染みの活動を支援している。また、5類移行後、利用者同士が居室を訪問することあり、穏やかに過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮し、テーブルを分け、席配置を工夫している。レクリエーションは全員参加型のものを取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で暮らしている本人家族の繋がりを大切にし、サービス終了後においてもフォロー・相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、意向を出来る限り把握し、実現するようにしている。センター方式の一部の私の気持ちシートを用い、思いを引き出そうとしている。	センター方式の中の「私の気持ちシート」に、不安や悲しみ、嬉しい・楽しい・快い、関りや支援、やりたいこと、願い・要望、そして「つぶやき」などを記録して、書道、琴、野菜作りなど、希望に沿え得るよう支援している。平均年齢90.6歳と高齢化が進んでいることから季節感を大切に、誕生会や行事などで日々メリハリのある生活が送れるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に今までの生活パターンを含めた話を伺い、親しみ慣れている生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を、職員同士の申し送りや、生活一覧表に落とし込み、心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会において課題とケアのあり方を話し合っている。また関係機関(医療)の主催する勉強会を開催し、情報の共有ができた。	各職員は一人の利用者を担当し、身の回りや居室などの管理をしている。月1回の定例会で全員のモニタリングを行っている。介護計画の長期目標は1年、短期目標は半年を基本とし、計画作成担当者を中心に見直しをしている。状態の変化に応じて随時の見直しも行っている。新型コロナ禍ではあるが月1回以上家族の来訪があり、面会時に意見・要望などを聞き、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りなどで、細かいことであっても情報の共有をし、実行に移している。定例会の前には個別記録や生活一覧表をチェックし、議題に反映している。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	書道が得意な利用者のため、書道コンクールに応募するなど、柔軟な対応を志している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に参加したり、事業所内で利用者の力を活かし、共に装飾・ゲームを作り、夏祭り等の行事を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者5名のうち4名は訪問診療(月2回)を受け、看護師や医師と目を合わせて会話をし、状態観察を受けている。1名は家族対応で、病院へ受診している。その際には施設内での様子を伝えている。	かかりつけ医については利用契約時に協力医による往診があることなどを説明し希望を聞いている。現在、月2回、協力医の往診を受けている方が三分の二おり、家族対応での受診が若干名となっている。協力医の往診の際には同じ診療所の看護師も来訪しており24時間のオンコールが可能となっている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所には非常勤の看護師が勤務しており万が一の時には連携をとることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療(月2回)の際に看護職に相談できるように、日常の変化について話をするよう心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、地域連携室と連携し、情報共有に努めている。訪問診療に来ている医療機関とは、勉強会を開いてもらう等、良い関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療をして下さっている医療機関による、ターミナルケアに向けた勉強会を開催してもらい、事業所の職員と看護師、主治医と利用者の情報共有をすするとともに交流を深めることができた。重度化した場合にはその都度家族とカンファレンスをする方針である。	利用契約時に「看取りについての事前確認書」を基に緊急時対応、終末期に向けた取り組みについて説明し同意をいただいている。この数年で2名の方をホームで看取っており、看取りの時期に入ると毎日の申し送りや随時の話し合いで小まめに対応し、看護師によるターミナルケアについての勉強会も開いている。今のところ大半の利用者がホームでの看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社協主催の救急法の勉強会に参加し、技術向上に努めている。急変時には、主治医や医療機関と連携している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している事業所と合同で行う訓練を、消防署の協力を得て年2回行っている。	年2回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で消防署立会いの下、消火訓練、避難訓練などの防災訓練が行われている。また、通報訓練、緊急連絡網での一斉連絡訓練なども行い確認している。水害等の方が一の場合は隣接する福祉センターの2階へ避難するようになっている。備蓄としてホーム独自に「水」「レトルト食品」「缶詰」「お米」など半月分が用意されており、大雪や停電等にも備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格に合わせてそれに対し周りの方も不安にならないような声掛けを行っている。	玄関には「サービスの提供方針」が掲げられており、方針の中に「プライバシーの確保・人権尊重・個人情報の保護」等が明記されている。また、法人としてコンプライアンス・プライバシー保護の研修が開かれ職員は参加している。利用者全員が女性という中、男性職員もいることから介助の際には希望に沿えるよう支援している。居室でほぼ一日中過ごされる方もおり、入り口は暖簾やパーテーションも利用しプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の誕生日会等希望に沿った内容を提供している。お茶の時間に個々に飲みたいものを聞いて提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼間身体を休めたい方は居室で休息してもらったり、起きているのが辛い方は横になってもらうなどしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身体に合わなくなってきたり季節に合わせて調節。定期的にヘアカットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯をよそったり、イベントある時は、何が食べたいのかメニューを考えたりしてもらっている。一緒におやつの盛り付けしたり、お膳を拭き上げもお願いしている。	自力で食事が出来る方が半数で、見守りながら一部介助の方が若干名となっている。一人ひとりに合わせ一口大に刻み、また、軟菜などを提供している。月1回のイベント食では季節に応じて栗ご飯などのメニューを楽しんでいる。おはぎや月見団子作り、焼き芋会などにも力量に応じて参加していただき、10月のハロウィンではデコレーションケーキを作り楽しんだという。誕生日には担当職員が利用者に希望を聞き、好きなメニューを用意し、3時のおやつにはケーキでお祝いしている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所との夏祭りでは屋台風のバイキングも楽しんだという。プランターで夏野菜が作られ、調理に使用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活一覧表に記録し1日食事、水分量摂れているか確認できている。体調に合わせて、刻みなど対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施、口腔内に食べ物が残ってしまう方は職員がブラシで介助行っていて、臭いや誤嚥にも注意している。		

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の後にトイレ誘導することで排泄につながる事ができている。自分で行けない方には排泄パターン把握し、誘導することで、なるべくトイレで排泄することをめざしている。	全員の人が一部介助でリハビリパンツとパットの併用である。リハビリパンツ等の変更時には家族と相談し、事業所でまとめ買いし一人ひとりに分けて使用している。排泄は生活一覧表に記録されており定時誘導のほか、様子を見ながら声掛けしトイレでの排せつを大切に支援している。排便促進について水分や乳製品の摂取、体操などを心掛けており、医師と相談し薬を使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる前に便秘薬で調節することで日常生活に負担がないように心掛けている。水分の促しや、運動兼ねて館内歩行など実施。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調をみながら入浴支援できるように、体調が悪い時は別の日に入るなど対応している。体調が優れない時は清拭や足浴するなどしている。	全利用者が全介助となっている。今のところ職員一人で介助しているが、看取り期には清拭で対応している。浴室は一般浴槽でシャワーチェアも備えている。基本的には週2回の入浴としている。脱衣所はファンヒーターを使用し温度管理している。入浴を拒む時もあるが声掛けのタイミングや職員を変えたりして入っていただいている。季節の菖蒲湯、柚子湯などを行い、個人的に入浴剤を使用している方がいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間起きている事が辛い方には横になってもらったり寝やすい環境作りを職員間で共有している。また、安眠できるように声掛けにも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数人でダブルチェックし、飲み忘れが無いように服薬支援出来ている。また、服薬で変更があった場合には、主治医に報告も出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お膳拭き、洗濯物干しなど個々の機能に合わせて無理せず手伝ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ明け、少しずつ外出も増え季節を感じることも出来ている。家族会も再開した普段見ることのできない表情も見ることができた。外食も計画し、個々に好きな物を注文することもできた。	外出時、自力歩行の方が半数弱、歩行器利用の方が半数となっている。ホーム内の手摺りなど掴まる場所は赤で分かりやすくなっている。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、ペランダで外気浴をしたり、昼食会、お茶会、バーベキューなどをすることもある。新型コロナ5類移行後、桜・藤などの花見、外食、紅葉狩り等にも出掛けている。	

社会福祉法人軽井沢町社会福祉協議会くにちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は本人では難しく、職員で管理している。本人の希望を聞いて代行購入は出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話することは難しくなっているが、ご家族からの電話には喜ばれている。お便りで近況報告できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の老朽化に伴いとところどころ補修しながら、転倒しないよう注意を払っている。夜間でもトイレの場所が分かるように、床に反射テープを貼り対応している。	ホームの建物は老朽化しているものの堅固な造りで、玄関、廊下、リビングは広く、天井も高く、天窓を開けると夏は涼しい風が入ってくる。トイレも広々しており入り口には矢印の表示があって分かりやすくなっている。お風呂の入り口には温泉マークと「ゆ」と書かれ暖簾が下がり、椅子式の炬燵を利用して家庭的に過ごされている。廊下の壁には模造紙に季節が感じられるよう紙製の色々な花や葉が飾られている。また、リビングの一角には利用者の写真が掲示され、その写真から日々の様子を窺うことができ、居心地良く過ごされていることが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とお茶を飲んだり、日が当たる時間帯には日向ぼっこができるような場所に椅子を置き座れるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が持ってきてくれた物や、誕生日カードや行事の写真を飾り本人らしい居室作りを心掛けている。	居室は広々としており、洗面台、クローゼット、ベットが完備されて整理整頓されている。衣装ケースなど、使い慣れたものが持ち込まれている。壁には家族の写真や感謝状が貼られ、誕生日プレゼント、人形なども置かれている。また、誕生日会に職員から贈られたメッセージカードも飾れ、居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁面に大きなカレンダー、季節の装飾をするなど設置している。歩行に危険が無いよう、配線など気をつけ障害物が無いように配慮している。		